

横田破堤記念碑

信濃川左岸堤防に面したこの辺りは、川がやや湾曲して、水流が激しく突き当たる所であった。現在この堤防上に「横田破堤記念碑」がある。これは破堤満 70 年を記念して、昭和 41 年（1966）に建てられたもので、碑文は時の農林大臣坂田英一の書である。

《横田切れ》

明治 29 年（1896）の天候は不順であった。7 月中旬から降り続いた大雨で信濃川は氾濫した。7 月 22 日午前 8 時、小池樋管から、東へ隔たること 120m の堤防底辺の、直径 6m ほどの穴から漏水が吹き出し、たちまち堤防は決壊。

一挙に流れ込んだ津波のような濁流に直面した小池・横田両村の流失家屋は 40 数戸、半壊家屋や農作業小屋など数棟が激流に飲み込まれた。田畑は広範囲にわたって不毛の地となった。

西蒲原郡 18,000ha の稲作は、出穂を前にして濁水に没し、土地の低い田地のでは収穫皆無の所もあった。濁流は新潟市近くまで流れていったと伝えられている。

破堤箇所真下の横田・小池両村の被害は最も大きく、流失・半壊、土砂の流れ込んだ家屋の住民らは、堤防の掘っ立て小屋で過ごすこと 4 ヶ月。中には家族ぐるみ親戚方に同居するなど、筆舌に尽くし難い惨状は、「横田くどき」につくられて歌い継がれた。

